



発行所
日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1丁目10番11号
電話 東京 (03) 5777-2351 代表
©日刊自動車新聞社2024

11月29日
(金曜日)

27年度までに160億円超投資

新明和 特装車生産を強化

環境対応向上も視野に

新明和工業は、特装車工場生産増強と環境対応の向上を狙い、2027年度までに160億円超を投資する。広島工場（広島県東広島市）と寒川工場（神奈川県寒川町）では塗装工場を建て替えもしくは新設する。大型ダンプトラックや防衛関連を手がける佐野工場（栃木県佐野市）では、建屋を増築するとともに「大型5面加工機」を増設する計画だ。これら増産体制の構築によって、従来比1割強の増収効果を見込むと同時に、二酸化炭素（CO₂）の排出量を同6〜8%削減して環境への取り組みを訴求し、受注拡大につなげていく。

中・小型ダンプやテールゲートリフターを製造する寒川工場では54億円を投じ、塗装工場を建て替える。完成予定は26年9月。塗装ラインの可搬重量を現状の1・5倍に引き上げ、重量車の生産に対応させる。増収効果は同12%増を見込む。CO₂排出量は同6%減を目指す。

広島工場では、36億円を投じて塵芥車専用の塗装工場を設ける。完成は27年3月の予定。従来は塗色や仕様にかかわらず、すべての車両を個別にブースで塗装していたが、

新工場の稼働を機に、色別のラインを設けるなど合理化して作業負担を軽減する。同時にロボットを導入して省人化も図る。増収効果は同11%増、CO₂排出量は同7%減をそれぞれ見込む。

佐野工場に増築する工場は建屋面積が約6500平方メートルで、投資額75億円。28年3月の完成を予定する。建屋内には約3千平方メートルの部品倉庫を設けて生産性を高める。ワーク下面を除く5面を一度の工程で加工できる大型5面加工機を増設して効率と工作精度を同時に高める。増産体制の構築により売上高ベースで12%増の増収効果を見込む。CO₂排出量は8%削減する計画だ。

五十川龍之社長は「高水準な受注残解消でも生産増強が必要だ」と述べた。



広島工場には塵芥車専用塗装工場を立ち上げる。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2024年11月29日 日刊自動車新聞 14面 ©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。